

2023年度共通目的事業・助成事業一覧

一般社団法人 授業目的公衆送信補償金等管理協会

No	事業名	事業区分	事業概要	助成総額		
	申請者名			(円)	2023年度分 助成額 (円)	2024年度分 助成額 (円)
1	2023年第29回日本管楽合奏コンテスト	2	本コンテストは、管打楽器及び吹奏楽の研究・調査・啓発により音楽文化の向上を図り、小・中・高の音楽教育の充実・発展に寄与するとともに、合奏活動を通じて著作権等への理解を深めることを目的に、全国大会では毎年約10,000名の参加を得て実施している。小学生部門に加え中・高校生は編成規模に応じて部門を設け、各部門ごとに最優秀賞・優秀賞を選定し、各部門の最高位である最優秀グランプリ賞受賞団体には文部科学大臣賞が授与される。	6,500,000	6,500,000	—
	公益財団法人日本音楽教育文化振興会					
2	第33回兵庫県学生ピアノコンクール	2	兵庫県学生ピアノコンクールは1991年より33年続く県内最大のピアノコンクールで、「県コン」の愛称で親しまれています。これまでのべ3万人以上の学生が演奏し、毎年約1,000人がコンクールに参加、音楽に関わる人材育成の場として定着しています。また、音楽系の大学を目指すための登竜門といわれ、過去の参加者からはプロのピアニストを多数輩出しています。	1,650,000	1,650,000	—
	株式会社神戸新聞社					
3	第81回全国舞踊コンクール	2	1939年に始まり、バレエ、現代舞踊、邦舞、児童舞踊、群舞、創作舞踊の全6部門年齢別13部に全国から約850組、1200人が参加する国内最高レベルで、最も歴史があるダンスコンペティション。著名な舞踊家やコレオグラファーを数多く輩出しており、「舞踊の著作物」の表現者・創作者の育成、舞踊芸術の発展に貢献している。上位入賞者の演技ダイジェストやインタビューを公式ホームページ、動画配信サイトなどで紹介し、上位入賞者によるアンコール公演も実施する。	5,630,000	2,700,000	2,930,000
	株式会社中日新聞社東京本社（東京新聞）					
4	教科書定番教材4作品の番組制作と公開	2	これまで5年にわたり開催してきた企画展「教科書のなかの文学／教室のそとの文学」の実績を踏まえ、教科書定番教材4作品（芥川龍之介「羅生門」、中島敦「山月記」、森鷗外「舞姫」、夏目漱石「こころ」）に関し、教室で放映して作品への理解を深めることのできる教材番組を、新たに編集・制作する。20～30分の番組を想定し、教育現場へ無償で貸し出す（オンライン及びDVDを予定）。NHKエデュケーショナルと合同での制作が実現し、NHKアーカイブ所蔵の映像も使用可能となった。2023～24年度では、森鷗外「舞姫」、夏目漱石「こころ」を制作、公開。	18,250,000	9,100,000	9,150,000
	公益財団法人日本近代文学館					
5	第76回中部日本高等学校演劇大会	2	高校生の演劇活動の支援と普及のため1948年に始まった高校生の演劇大会。中部6県（愛知、三重、岐阜、石川、富山、福井）で行われる各県大会の上位校を対象としており、本大会の最優秀賞「文部科学大臣賞」を受賞した高校は全国大会に出場することが出来る。大会最終日には、演劇における多様な表現方法を学ぶための研修会も行われる。	540,000	540,000	—
	株式会社中日新聞社 名古屋本社					
6	「教育機関のための著作権コンサルテーションセンター」設置計画	1	教育機関のための「著作権コンサルテーションセンター」を設置し、1）著作権制度の理解、促進に資する支援システムの構築、2）教育機関内においてそのような理解を促すことができる人材の育成、3）教育・学習活動と著作権制度を適切に橋渡してできる人材による教育機関への高度な支援を実現する。これにより、教育機関及び教育関係者のみならず、権利者全体の利益にも資するものである。	15,520,000	15,520,000	—
	千葉大学アカデミック・リンク・センター					
7	「新しい子どもの歌」プロジェクト	2	当会は、未来を担う子どもたちへ新しい音楽を提供する作詞家・作曲家団体である。当会の活動の中心である「新しい子どもの歌プロジェクト」は、作詞コンクール、コンサート、楽譜出版から成る事業であり、幼児・児童・生徒を対象とした「子どもらしい歌・子どもが喜んで歌える歌」の創作・普及、ならびに、子どもたちが「新しい子どもの歌」に触れて言葉と音楽の素晴らしさや面白さを学ぶ機会を提供することを目的としている。	500,000	500,000	—
	一般社団法人全日本児童音楽協会					

【事業区分】1・・・著作権及び著作隣接権の保護に関する事業、2・・・著作物の創作の振興及び普及に資する事業

2023年度共通目的事業・助成事業一覧

一般社団法人 授業目的公衆送信補償金等管理協会

No	事業名	事業区分	事業概要	助成総額 (円)	助成額	
	申請者名				2023年度分 助成額(円)	2024年度分 助成額(円)
8	高円宮杯第75回全日本中学校英語弁論大会	2	全国の中学生を対象にした自作の英語スピーチコンテストで、その内容や表現方法などを競う。優勝者には大会名誉総裁の高円宮妃久子殿下から「高円宮杯」が授与される。1949年に創設され、日本の未来を担う国際的な人材育成を目標に70年以上にわたって開催し、各界に多くの人材を輩出している。決勝大会に出場した約30人の優秀スピーチは、動画撮影・編集してインターネットなどで広く公開し、英語著作物の振興及び学校現場での英語教育に役立っている。	10,000,000	10,000,000	—
	株式会社読売新聞東京本社					
9	第13回えひめこども新聞グランプリ	2	県内の小学校、特別支援学校小学部の全児童を対象とした新聞コンクール。A2サイズの応募台紙に、各児童が自由にテーマを考え、取材し、手書きのオリジナル新聞を制作する。 応募は各学校から市町の教育委員会経由。審査委員は小中学校長らで構成。地区審査と最終審査を経て、グランプリ（最優秀賞）などを決定する。入選発表は新聞紙上にて。表彰式や県内3地区での作品展を開催し、新聞社HPでも入選者作品を公開。	1,750,000	1,750,000	—
	株式会社愛媛新聞社					
10	「『5分でできる著作権教育』Webサイトの改訂・充実」事業	1	校種・教科毎に、小・中・高等学校の児童生徒に授業中のわずかな時間で著作権について教えることができる指導内容を紹介した事例集、教員が知っておくべき著作権Q & A等を掲載した『5分でできる著作権教育』Webサイトを、学習指導要領の改訂、GIGAスクール構想、著作権法改正等を踏まえて改訂し、コンテンツの充実を図る。	3,573,000	1,699,000	1,874,000
	公益社団法人著作権情報センター					
11	「著作権情報センター資料室の蔵書の充実、利用者サービスの拡充」事業	1	誰でも利用できる施設として一般公開している著作権情報センター資料室の、国内外の著作権関連図書資料の一層の充実を図り、利用者サービスの拡充として2022年12月から開始した図書資料の複写サービスを継続する。また、蔵書の増加を受けて蔵書点検を行い、書架を整理して、利用者がより利用しやすい配架を行う。	7,279,000	7,279,000	—
	公益社団法人著作権情報センター					
12	日本プロ音楽録音賞	1、2	本事業は音楽文化と産業の発展の一翼を担う録音エンジニアが制作し応募した音楽録音作品について、エンジニアが有する音楽に対する感性、技術力等を評価することにより、授賞対象優秀作品および最優秀作品並びにベストパフォーマー賞を選定し、これに携わり制作を担ったエンジニアおよびベストパフォーマーのアーティストを顕彰することでエンジニアの技術の向上と次世代エンジニアの発掘を図ることを目的とし、表彰を行うものである。	1,500,000	1,500,000	—
	一般社団法人日本音楽スタジオ協会					
13	「第91回全国盲学校弁論大会全国大会」	2	盲学校生徒を対象に1928年から続く弁論コンクールで、今年度は第91回。視覚に障害のある学生に自らの考えを言葉にまとめ相手に伝える重みを体験してもらうとともに、その思いを社会に伝え障害者理解につなげるのが大会の狙い。共に学ぶインクルーシブ教育が進展する中、各地の盲学校は地域の学校に通う視覚障害児童・学生を支援しており、そうした学生も交えて運営する方法を探りながら歴史ある大会の持続可能性を考えている。	3,000,000	3,000,000	—
	株式会社毎日新聞社					
14	小学生がえらぶ！"こどもの本"総選挙	2	全国の小学生に「今まで読んだ中で1番好きな本」を投票してもらい、ベスト10を中心に投票結果を広く発表する読書推進イベント。全国の小学校・書店での結果発表を通じ、こどもたちに新しい本との出会いを提供する。過去3回の実施でのべ50万人以上の小学生が投票に参加している。	10,000,000	10,000,000	—
	特定非営利活動法人こどもの本総選挙事務局					

【事業区分】1・・・著作権及び著作隣接権の保護に関する事業、2・・・著作物の創作の振興及び普及に資する事業

2023年度共通目的事業・助成事業一覧

一般社団法人 授業目的公衆送信補償金等管理協会

No	事業名	事業区分	事業概要	助成総額		
	申請者名			(円)	2023年度分 助成額 (円)	2024年度分 助成額 (円)
15	日本児童文学者協会ホームページ改定（著作権ガイド改定を含む）	1	協会のホームページでは、講座やセミナーなどの告知、作品募集、会の出版物の案内などと合わせて、会員に配布していた「児童文学 著作権ガイドブック」の全編を掲載するなど、著作権についての情報を積極的に発信してきた。今般、ホームページを全面改定し、発信の機能の向上を図ると共に、ガイドブックの内容も、児童書をめぐるメディア環境の変化に対応するべく一新する。	2,458,629	2,458,629	—
	一般社団法人日本児童文学者協会					
16	本屋大賞	2	全国の書店員が年に一度「この本は絶対に多くの人に読んで欲しい」と思った本を投票し、本屋大賞として発表。人々の読書活動に寄与し、多くの著作者や著作物を知ってもらうきっかけになることを狙い、幅広く出版業の発展に寄与する。さらに今年は20周年記念事業としてこれまでの受賞作を全国書店でフェア展開、読者の手引きとなる過去ノミネート約200作品を掲載した小冊子を作成し、過去の著作物が再び脚光を浴びる機会を作り出す。	3,000,000	3,000,000	—
	特定非営利活動法人本屋大賞実行委員会					
17	「著作権制度の理解に資する映像資料の制作、提供」事業	1	初等中等教育段階の児童生徒や彼らを指導する教員に著作権制度の内容やその重要性を理解してもらうことを目的に、授業の中で視聴することができる映像資料を制作し、動画配信サービスにアップロードして何時でも利用できる形で提供する。同時に、映像資料の内容や活用方法を解説するWebサイトを制作し、授業の中で活用することができるワークシートや教師用指導案等の資料も提供する。	22,973,000	22,973,000	—
	公益社団法人著作権情報センター					
18	第32回国際高校生選抜書展(書の甲子園)	2	我が国の伝統文化である書道を継承・発展させる一環として、1993年から毎年開催されている国内外の高校生を対象にした最高峰の公募書道展である。延べ65の国・地域から応募実績があり、個人賞に文部科学大臣賞、外務大臣賞、大阪府知事賞など、団体賞には全国優勝1校などを選出し、表彰する。 日本の書道芸術を幅広く発信し、国際交流にも貢献する稀有な展覧会。「書の甲子園」の愛称で知られる。	5,000,000	5,000,000	—
	一般財団法人毎日書道会					
19	多様化する教育現場を踏まえた著作権教育教材の活用推進	1	2022年度に開発した著作権教育教材（教員向け冊子・学生向け動画）を、教育現場における多様な構成員に対し活用するために、教材の英語化ならびに動画への字幕付与を行う。 また、教員を対象とした理解状況把握のための著作権クイズ（解説含む）と学生向け動画の字幕ON/OFF機能を有するウェブ環境の整備を行う。 さらに、初等中等教育課程の教員に対し、教員向け冊子の配布による広報活動を行う。	8,883,120	8,883,120	—
	一般社団法人大学ICT推進協議会					
20	第4回SOLASIDO「詩のあん唱」コンクール	2	全国の小学生に、お気に入りの詩を1編、暗唱している動画を募集する。 個人でも、グループや団体でも応募できる。朝日小学生新聞、当会のWebサイト、ポスターなどで呼びかける。公式ホームページ内の応募フォームに登録し、スマートフォン、デジタルカメラ、ビデオカメラで撮影した動画を180秒までに編集してアップロードする。	4,600,000	4,600,000	—
	公益社団法人全国学校図書館協議会					
21	JPAL挿絵美術展－日本出版美術家連盟75年の軌跡（仮）	1、2	日本で最も古い挿絵の職能団体である日本出版美術家連盟75周年にあわせた挿絵美術の展示会。 出版物の原画や出版美術の歴史や出版物も含めた展示である。併せて美術体験やワークショップや著作権に関するイベントを予定。	3,000,000	3,000,000	—
	一般社団法人日本出版美術家連盟					
22	第68回こども県展（令和5年度千葉県児童生徒美術展覧会）	2	絵画やデザインなどの表現は、人間の成長にとって欠くことのできないものであり、人間形成の基礎・基本となるものであるといわれる。 こども県展は、次代を担うこどもたちの豊かな心と、個性や創造性を育むことを目的として開催してきた。千葉県教育委員会をはじめ関係各団体の後援により、長い歴史と伝統がある。さらに内容の充実に努め、美術教育の振興発展に寄与することを目的としている。	4,200,000	4,200,000	—
	株式会社千葉日报社					

【事業区分】1・・・著作権及び著作隣接権の保護に関する事業、2・・・著作物の創作の振興及び普及に資する事業

2023年度共通目的事業・助成事業一覧

一般社団法人 授業目的公衆送信補償金等管理協会

No	事業名	事業区分	事業概要	助成総額		
	申請者名			(円)	2023年度分 助成額 (円)	2024年度分 助成額 (円)
23	第16回書道パフォーマンス甲子園 (全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会)	2	高校書道部による書道パフォーマンスの日本一を決定する大会である。書道パフォーマンスは、1チーム12人以内の選手が音楽に合わせて縦4m×横6mの紙に制限時間6分間の中でダンスなどの趣向を凝らしたパフォーマンスと共に、自分達の伝えたい思いを詩に込め、様々な書体を使って作品を作り、書や演技の美しさなどを競い合う。優勝には文部科学大臣賞を授与する。	10,000,000	10,000,000	-
	書道パフォーマンス甲子園実行委員会					
24	2024年 第26回日本ジュニア管打楽器コンクール	2	将来の我が国における管打楽器演奏の発展に貢献する人材の育成や教育現場における管打楽器教育の啓発・普及を図り、著作権等に対する理解を深めることを目的に、毎年約3,000名の全国の小学生・中学生・高校生が参加して実施される音楽コンクールである。小・中・高の各コースに、ソロ部門(12種)とアンサンブル部門(3種)があり、ソロ部門の最も優れた演奏者には文部科学大臣賞(小・中・高に各1枚)が授与される。	4,000,000	4,000,000	-
	公益財団法人日本音楽教育文化振興会					
25	中学・高校・大学ビブリオバトル全国大会	2	全国の中学生、高校生、大学生を対象にした書評合戦形式のコンテストで、聴衆が最も読んでみたいと思った「チャンプ本」を決める。2010年11月に東京で大学生大会を初めて開き、14年度から高校生大会、16年度から中学生大会も開催している。各大会は読売新聞東京本社が事務局を務める活字文化推進会議が主催し、文部科学省や各都道府県教育委員会などの後援を得て実施している。大会の様子は読売新聞本紙のほか、動画撮影・編集してインターネットなどで広く公開し、良書の魅力を広く伝えるとともに、著作者の創作意欲の向上につなげることで、著作物の普及・振興および活字文化の振興に寄与する。	10,000,000	10,000,000	-
	株式会社読売新聞東京本社					
26	読書教養講座・活字文化公開講座	2	全国各地の大学を会場として、一般市民や学生を対象に読書の魅力を伝える無料公開講座を開催する。著名な作家や学者などを招いて自身の創作活動や読書の楽しみ方などを語ってもらい、パネルディスカッションや参加者との対話を通じて活字文化の振興を後押しする。読売新聞社が事務局を務める活字文化推進会議と各大学が主催する形で、2005年に始まり、これまでに講師を務めた作家らは延べ150人を超えている。講座の様子は読売新聞紙面で詳報するほか、講座の様子を撮影・編集した動画をインターネットで広く無料公開し、読書を通じた著作物の振興・普及に寄与する。	2,600,000	2,600,000	-
	株式会社読売新聞東京本社					
27	しまね小中学生新聞コンクール	2	テーマを決めて自分だけの新聞をつくるコンクール。専用用紙に絵やイラスト、写真などを使って制作。審査員は、県教育委員会、県教育研究会、山陰中央新報社ほかで構成。各学年の最優秀、優秀、優良、入賞が決まる。優秀な作品は新聞紙面で紹介。また、イオン松江、出雲、益田店で作品展を行う。	1,000,000	1,000,000	-
	株式会社山陰中央新報社					
28	第33回新人シナリオコンクール	2	昭和25年創設の日本最初のシナリオコンクール「新人映画シナリオコンクール」と昭和37年創設の「新人テレビシナリオコンクール」を平成4年に統合し、優秀な新人脚本家の発掘と育成を目的として運営し、数多くのプロ作家を輩出してきた。また映像作品の根幹を成す脚本を執筆する脚本家を発掘・育成することで映像文化全体の発展に寄与し、著作物創作の振興によって文化芸術の振興や普及を行うことも目的とする。	4,505,175	2,403,357	2,101,818
	協同組合日本シナリオ作家協会					

【事業区分】1・・・著作権及び著作隣接権の保護に関する事業、2・・・著作物の創作の振興及び普及に資する事業

2023年度助成事業(4月27日時点) 助成総額合計 171,911,924円(内2023年度分 155,856,106円、2024年度分 16,055,818円)